



浜松観光ボランティアガイドの会

晴天の下 浜松まつり開催！

今年も5月3日から5日までの三日間、晴天の下、浜松まつりが盛大に開催されました。「浜松まつり組織委員会」の発表によると、今年の人出は合計約250万人で、過去2番目に多い数となったそうです。ちなみに、1番多かったのは、俳優の松本潤さんが参加した2023年で、255万5000人です。

私たちボランティアは例年通り、大風前での記念撮影、凧揚げ体験受付、浜松まつり会館案内、同時並行で駅の案内や浜松城案内で浜松まつりを支えました。



快晴の空の下で凧揚げ

三日間の接客数合計は、記念撮影と凧揚げ体験を合わせるとなんと一万人越え！！特に最終日の凧揚げ体験へ参加した大人の数が去年の4倍以上の1862人で、途中で大人用の軍手が足りなくなるといふ今まで想定していなかった事態が起こったほどでした。まつり会館の入場者数合計も昨年より1000人ほど多いので、実際たくさんの人たちに凧場に来ていただいていたことがわかります。浜松城も連日2500人前後の来場者でにぎわいました。

私は浜松出身ではないので、実はいまだに浜松まつりの全体像を理解していません。今年は夫が自治会の理事のため、4日の朝の屋台の移動と夕方の御殿屋台引き回しの手伝いに入っていましたので、これ幸いと私も見学について行きました。朝6時半に町内を出発し、軽トラックでゆっくり引



大風の前で法被を着て記念撮影

きながら、ソラモまで御殿屋台を運んで行きました。ソラモに到着すると人力だけで所定の位置まで引っ張ります。床を傷つけないように赤いマットを敷いて、移動するごとにマットもみんなで走り回って移動させ、その連係プレーに見



御殿屋台をソラモに運び込む様子

入ってしまいました。全部の屋台が収まるまでであったという間でした。熱心に動画撮影をしている外国の方もいらっしゃいました。

夕方は御殿屋台引き回しが始まる前にお囃子披露があって、子供連の晴れ舞台でした。18時から引き回しに合わせて、朝と同じ順番でソラモを出発し、鍛冶町方面へ移動。そのころには、鍛冶町通りは交通規制され、道路は練りと屋台しか通れないようになり、身動きができないほどの人で埋め尽くされていました。

ミュージックアベニュー浜松(ヤマハ)の前の鍛冶町交差点では、各町自慢の御殿屋台が行き交い、どこの町のような屋台か、詳しい説明が放送されるので見ていて飽きません。屋台の人、練りの人、見ている人、みんなが楽しそうな様子を見て、微力ながら今年も浜松まつりのお手伝いのできたことへの感謝と感動がじんわり湧き起こってきました。最終日の祭囃子は名残惜しく、いつまでも聞こえてくるような気がしました。



広小路を行き交う御殿屋台

広報部 松沼素子(南ブロック)

会員の交流広場

毎年恒例の神社正式参拝を続けて

私が総代を務める蒲神明宮では、総代になる前から毎年、研修旅行と称して神社への正式参拝が続いていましたが、2020年当初からの新型コロナウイルスの影響により、三密を避けるためバスでの研修旅行は中断せざるを得ませんでした。

コロナ禍が終息の気配を感じられるようになった2023年の3月に思いきって「コロナ禍退散」と銘打って伊勢神宮へ祈願の参拝を催行しました。内宮様、外宮様共、神職のご案内に真剣な趣深い気持ちになったことを今でも覚えています。

去年は相模國一之宮「寒川神社」を参拝し、今年の研修旅行は少し近場で観光を兼ねて「熱田神宮」への正式参拝と、私のための希望で名古屋城・本丸御殿の見学と相成り、3月12日(水)に催行されました。

熱田さんと呼ばれ親しまれている熱田神宮は三種の神器の一つである草薙の神剣を御神体として祀る伊勢神宮に次ぐ由緒ある立派な大宮です。

神苑の広さと弘法大師お手植えと伝わる大楠に圧

倒され、続いて剣の宝庫・草薙館に入り、我が国の伝統芸能の技量の深さに大変感銘を受けました。

お楽しみの昼食は、名古屋城近くの食楽堂「蓬左hōsa」にて、ひつまぶし和膳をいただき、お目当ての名古屋城へ。

最初に出迎えてくれたのは、美しい算木積み・切込接の石垣でした。新人養成講座で石垣の講座を担当して以来こんなに早く美しい石垣に巡り合うとは思っていませんでした。

続いて徳川家康が外様大名を動員して築城した本丸御殿へ。太平洋戦争の空襲で焼失する前までは、近世城郭御殿の最高傑作と言われ国宝に指定されていました。まさに400年の時を越えて築城当時のまま蘇った美しい御殿を心ゆくまで楽しむには時間がなく残念でした。普段浜松城の野面積みの石垣を見慣れているせいか家康の天下普請の名古屋城の高石垣、本丸御殿の素晴らしさに魅了されながら帰路につきました。



熱田神宮での筆者

東ブロック 桶田忠正



相模國一之宮「寒川神社」参拝

会員の交流広場

三ケ日の伊雑皇(いぞうこう)神社



みかんの花

三ケ日と言えば、みかん！冬のオレンジ色も平和を感じさせてくれますが白い花も、とてもいい香りです。

4月29日、そんなみかんのフレイグランス・ウォーター作りイベントに参加してきました。このイベントの他、過去2回猪鼻湖沿いの3つのホテルがタイアップして、

青果取り・はちみつ豆知識・選果場見学・みかん大福作り等々をご紹介くださり、捨てられていた青果は今やSDGsに大きく貢献しているとのことで、とても興味深いものでした。

一昨年、ブロック研修で奥浜名湖の神社・仏閣を巡った際、初生衣(うぶぎぬ)神社では、こちらの織殿

(おりどの)で織られた御衣(おんぞ)が伊勢神宮に奉獻されていて、今でもゆかりの儀式が毎年執り行われているとも聞きましたが、伊雑皇神社のことは知らないでいました。

一連の企画の中で知って、今年3月に訪ねてみました。初生衣神社の奥深く、小高い丘のみかん畑のその中にひっそりとその神社はありました。二本の滝が流れ、川があり、お伊勢様を小さくしたような瀟洒(しょうしゃ)な空間でした。

伊勢路へと運ばれる御衣をこちらの末社が温かく見守っていてくれたようで、胸が熱くもなりました。遠州織物の



絶えることのない滝

の聖地とも言われる三ケ日、魅力がいっぱいでした。

南ブロック 金原里枝

新入会員の入会動機



知人に紹介され、本会を知りました。今まで個人的な旅行を通して、各土地の文化や歴史、史跡を知ることを楽しんできましたので、それとは逆の立場で、旅行されている方に浜松を紹介するボランティアガイドの仕事に興味を持ちました。45年前に他県から、就職で浜松に移り住み、浜松にはいろいろと歴史的なものが身の回りであることを、なんとなく感じて生活してきましたが、それを深く調べる機会がありませんでした。いざ研修会に参加してみると日々意識せず通り過ぎていたものが歴史的遺物だったり、それらの関連やいわれを知り、さらに興味が深くなりました。浜松を訪れる内外の旅行者の方に、よりDEEPな浜松を紹介していけたらと思っています。

東ブロック 竹内尚之



ちゃんと歴史を学びたい、もっと浜松のことを知りたい、という思いから入会いたしました。10年前、職場の異動した先で地域の歴史に触れ、土地の文化を継承する人たちに出逢い「浜松にはこんなにも歴史があるんだ」と目が開かれる思いをしました。歴史に興味を持ってからは、知れば知るほど知らないことだらけだと思ひ知らされます。歴史を学んでいると、思いもよらない事柄が繋がる瞬間があって、それが面白くてクセになり抜け出せなくなってしまいました。旅先などの地元の人とのほんのひとときの触れ合いでも、後々ふと思ひ出してあたたかな気持ちになることがあります。そんな印象を浜松に持ってもらえるようなご案内ができるよう、研鑽していきたいです。

西ブロック 窪田涼子



既会員の河合さんに誘われて入会しました。河合さんとは英会話クラブで一緒させてもらっていて英会話を勉強する動機付けになればと思いました。

一度実習をしましたが、英会話力、ガイド知識より前に心臓を強くしなければならぬと感じました。

南ブロック 松井 茂



アウトドアが趣味で、登山、スキー、バイクツーリング、旅行を通じ、世界を旅してきた。浜松以外の各地に住むことにより浜松の良さ、悪さを身を持って体験してきた。外来者の視点で、浜松の魅力をPRし、観光面の活性化に向け役に立ちたいと思う。

中ブロック 金原裕一



私が入会するきっかけとなったのは、歴史講座を受講した事です。2023年の大河ドラマ「どうする家康」が観たくて申し込みをしました。その講座はとても楽しく、もちろんドラマも楽しめました。その後も歴史講座に入会させていただき、月一回の受講を楽しんでいます。親しくなった人たちとの会話も楽しく、その中に「ボランティアガイドの会」のお話がありました。

ほんの少しの興味で新人養成講座に申し込み、入会することになりました。学ぶことばかりではありますが、楽しんで知識を深めていきたいと思ひます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

北ブロック 遠山和代



私は、幼少のころから歴史に興味があり、特に歴史漫画を見ることが大好きでした。漫画を見ているうちに、この人物はどのような事をして歴史上の表舞台に立ったのか、また建築物を見てどのような作りになっているか自分の目で確かめたいという気持ちが強かったように思ひます。これは、今現在でも変わらない気持ちでいます。

人物では、徳川家康公の生き方を大変尊敬しております。漫画だけでなく、小説など様々な本を読みました。また近年から実施されております家康公検定も受験して知識を深めております。しかし家康公についてまだまだ知らないことが多く、ある日図書館へ入ろうとしたらままつ案内人のチラシに目が入り手に取ってみますと、興味深い内容で勉強できるならやってみようという気持ちになりました。

家康公(とりわけ浜松在城時代)についてガイドすることは大変烏滸(おこ)がましいとは思ひますが、浜松に来てよかったと多くの方が思ひいただけるようなきっかけ作りができるよう努力してまいります。よろしくお願ひいたします。

東ブロック 山下文秀

中ブロックミニ研修

真徳山天林寺 散策

5月19日(月)、中央区下池川町の真徳山天林寺にて、中ブロックミニ研修を20名(他ブロック1名)の参加で実施しました。

天林寺は浜松市役所北方の丘陵地に伽藍(がらん)を構える曹洞宗の大寺で、室町時代開創の古刹(こさつ)です。



本瓦葺入母屋造の楼門

文安2年(1445)引間城麓に普濟寺華藏義曇(けぞうぎどん)禅師の高弟にあたる傑堂義俊(けつどうぎしゅん)禅師が亀鶴山

(きかくざん)万蔵院を開山しました。

永正8年(1511)三世長圓が現在地に堂宇(どうう)を移し、亀鶴山大安寺さらに亀鶴山大徳寺と改称して、地元の人々からは敬意を受けました。しかし、元亀3年(1572)、三方ヶ原合戦の余波を受けて、一時井伊谷村へ避難し、その後、戦火が収まった天正13年(1585)、現在地に移り、寺号を真徳山天林寺と改め、翌年には徳川家康から朱印18石を賜りました。

この寺号改変については、「曳駒拾遺(ひくましゅうい)」に開基事件として伝えられており、「黒装束の一団が境内を徘徊し、本堂の扉を破り、物を壊すなど

狼藉をはたらく夜が続いた。法師たちは狐狸の仕業ではないかと追い詰めると傷を追った狐を見つけた。以降、狐の霊を追い払うために寺号を改めた」と記述されています。

境内の伽藍は戦火で焼失し再建されました。山門の意味やなぜ寺号に「○○山」と記されているのかとの説明を聞きながら霊園に移動し、高力長房(第6代浜松城主高力忠房の次男で幕府中奥小姓)の墓などを見学しました。元新選組隊士・中島登氏の墓碑には、新選組入隊から函館五稜郭に勇戦の様子が記されています。



華道家 岩田立山の像の前で

駐車場わきには、明治時代に活躍した浜松出身の池坊の華道家、岩田立山の像があります。右手には花ばさみを持っているのが特徴的です。一時間程でしたが、天林寺ミニ研修を終えました。

中ブロック 鈴木康生

5月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

19日	月	マジェスティオーナーズクラブ	7名
20日	火	豊岡市議会文教民生委員会	10名
22日	木	磐田市立磐田南小学校	91名

《浜松まつり会館》

3日~5日	浜松まつり対応
24日	土 株式会社三和工務店 21名

《犀ヶ崖資料館》

団体ガイドの実績はありません

はままつ案内人会報 275号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946 浜松市中央区元城町 100-2 (浜松城内)

TEL 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ <https://www.hama-svg.jp/>

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地